

死ぬ時は、 隣にお前が いてほしい

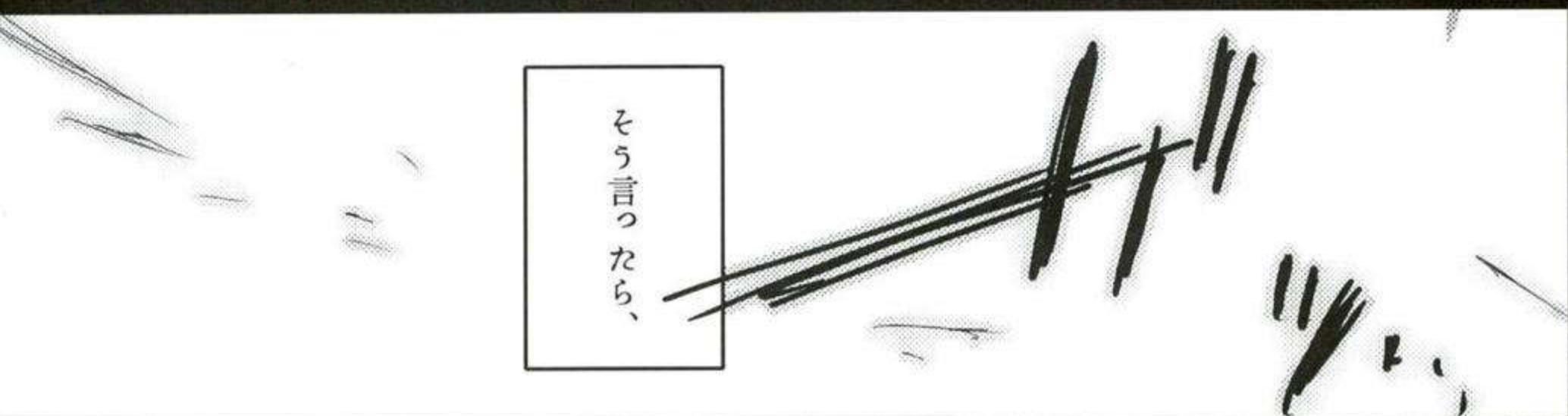
そう言ったら、鶴丸は酷く怖い顔で俺を叱った



刀剣乱舞 三次創作本
大俱利伽羅×鶴丸国永
二〇一五年八月三十日 一夏/ちい



死ぬときは、
隣にお前が
いてほしい



そう言ったら、

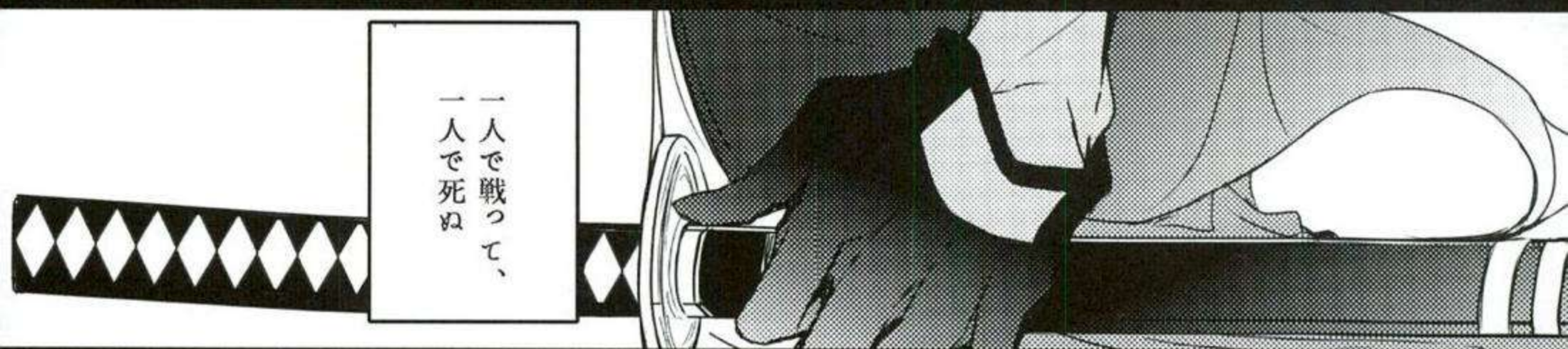


鶴丸は、
酷く怖い顔で
俺を叱った

ずっと胸に
ひっかかる
言葉があつた



一人で戦って、
一人で死ぬ

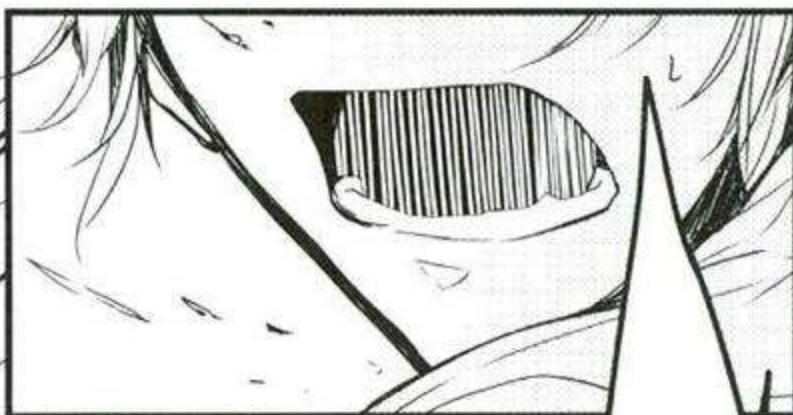


口癖みたいに
それを唱える
大俱利伽羅は、



俺を恨んでいる
のだと思つた





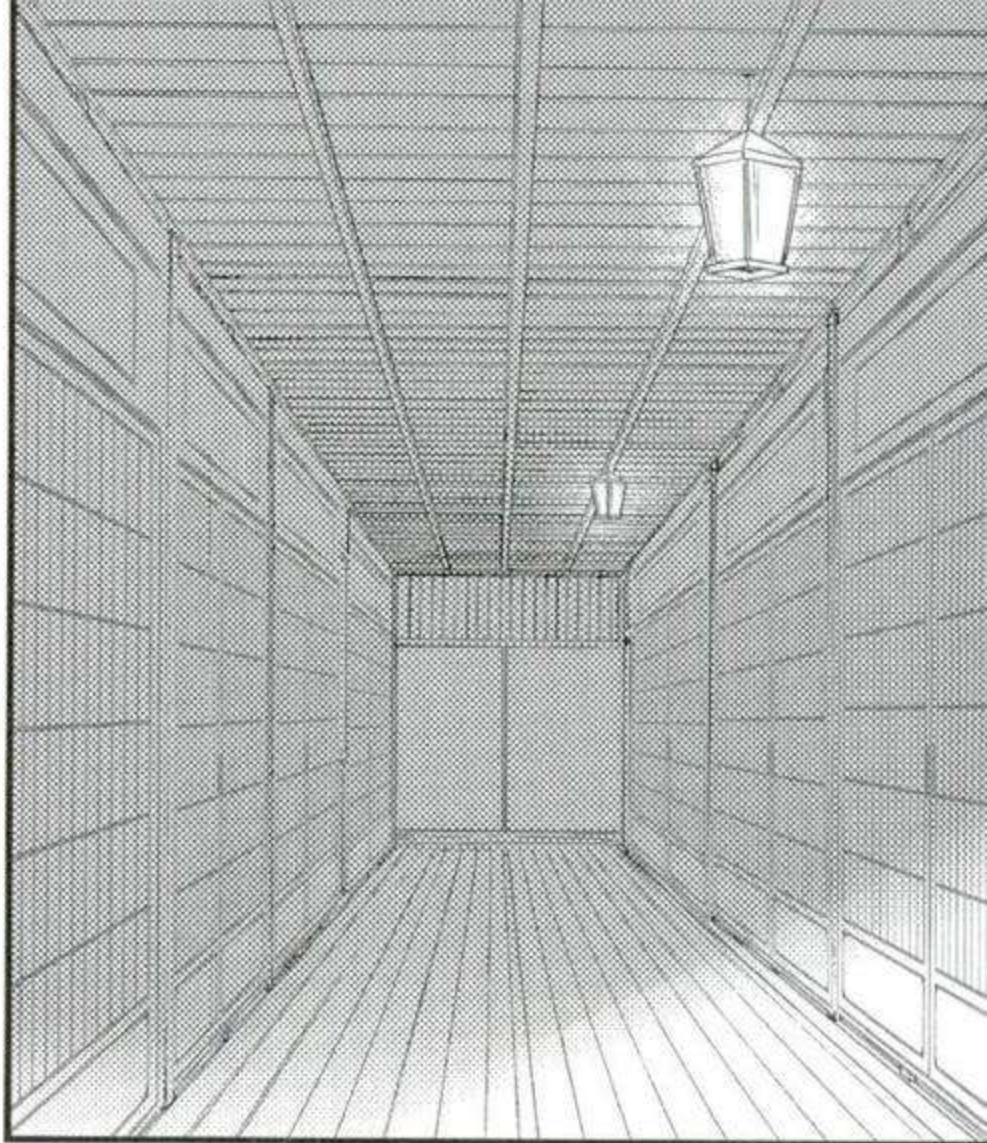












凄いな、

もう大丈夫
なのかい？



倶利伽羅は……



ああ、俺の方は
随分良くなったよ。

お前や皆も
もういいのか。

ああ、
おかげさまで、

俺たちは大した
ことないよ。



俺よりも大倶利伽羅の
方が酷いなって
審神者にも
笑われちゃった

ははっ、

……笑ってたのは
君の方だろ……





変わらないな、
昔から

一人で戦って、
一人で死ぬ



口癖みたいに、

言い聞かせる
みたいに、
よく言ってるだろ

とんだ死に急ぎだ























この手の君の顔は、
本当に興奮するんだよ



挿れるぞ、



ああ、

……んっ、

はあっ、

まっ……

今いったばっか……

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ





ああ……

もう、そんな顔も
できるようになっ
ちまったか……



満たされていく

ああ、
生きてるんだって

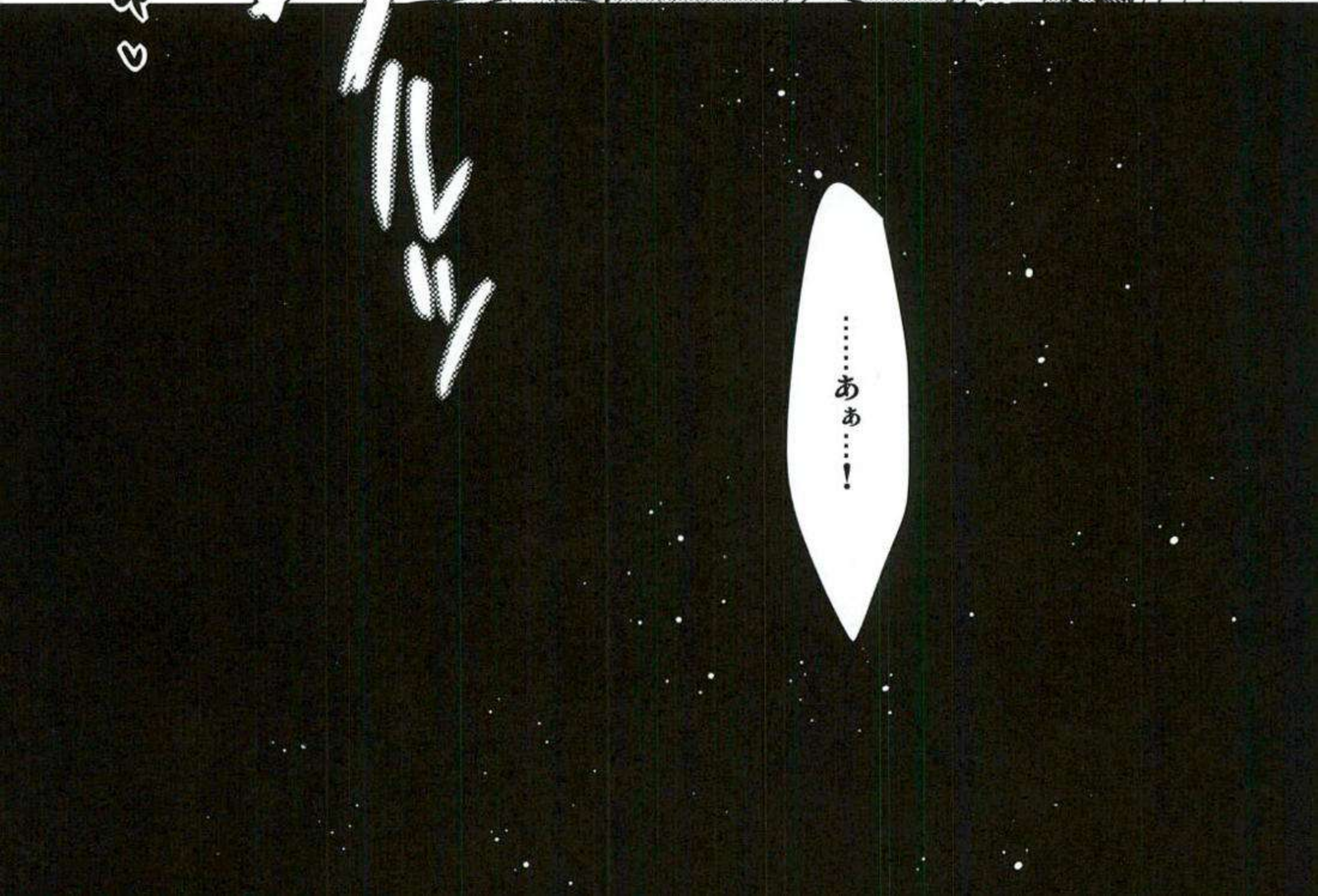


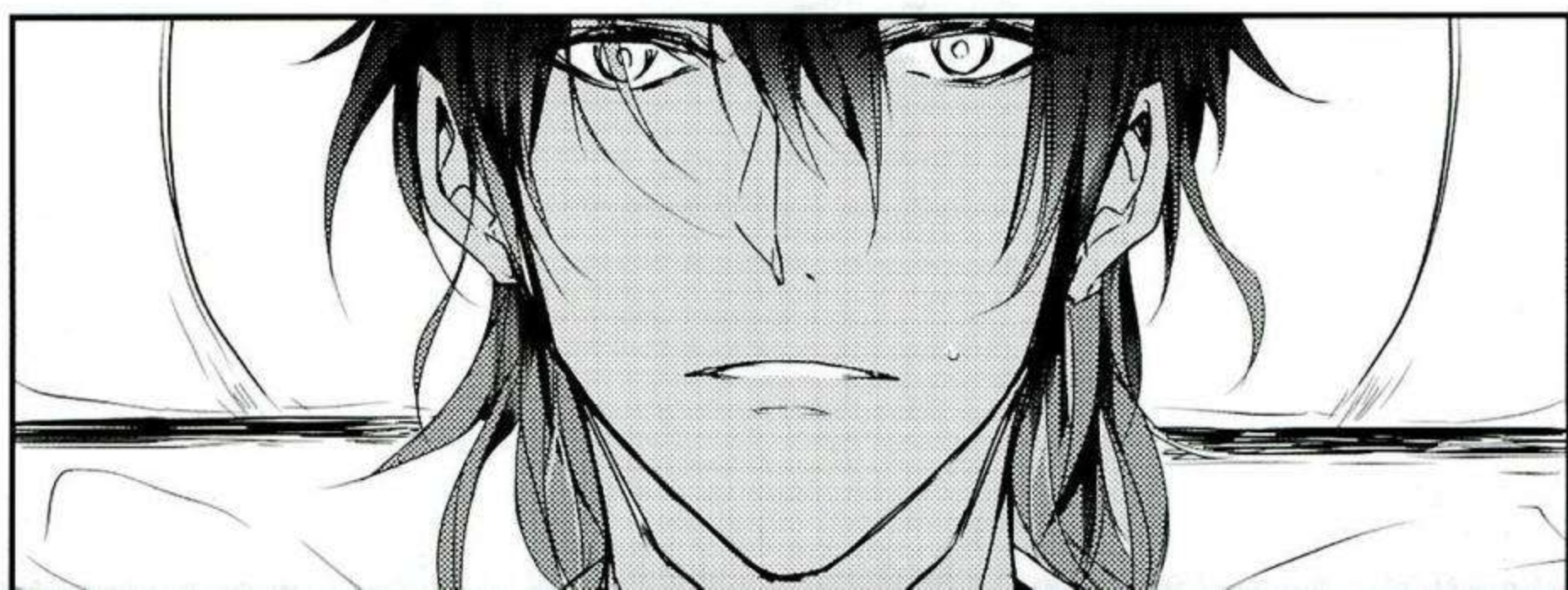
何笑って……

いやあ、
君の顔を見てる
と参るな

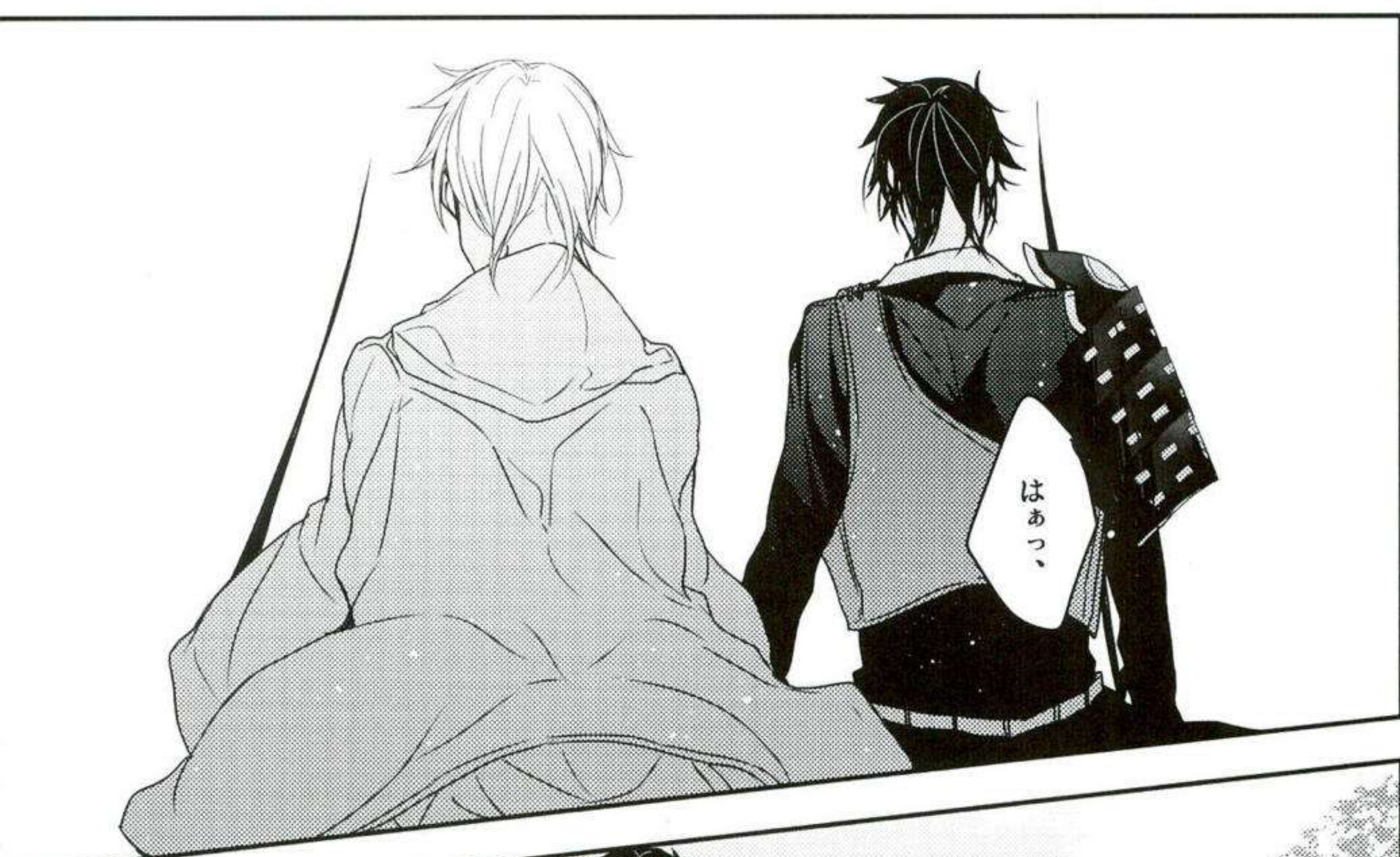
幸せで
火照っちゃう













どこに
行く気だ?

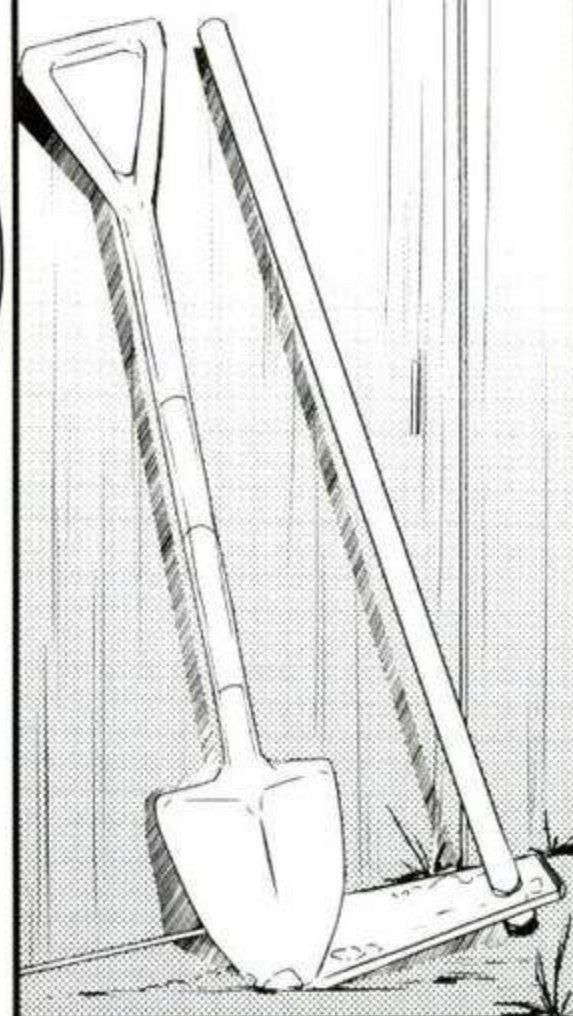


今日はお前は
安静にしろって
言われてるだろ

光忠達なら
とうの昔に出た



お前は
俺と内番だ

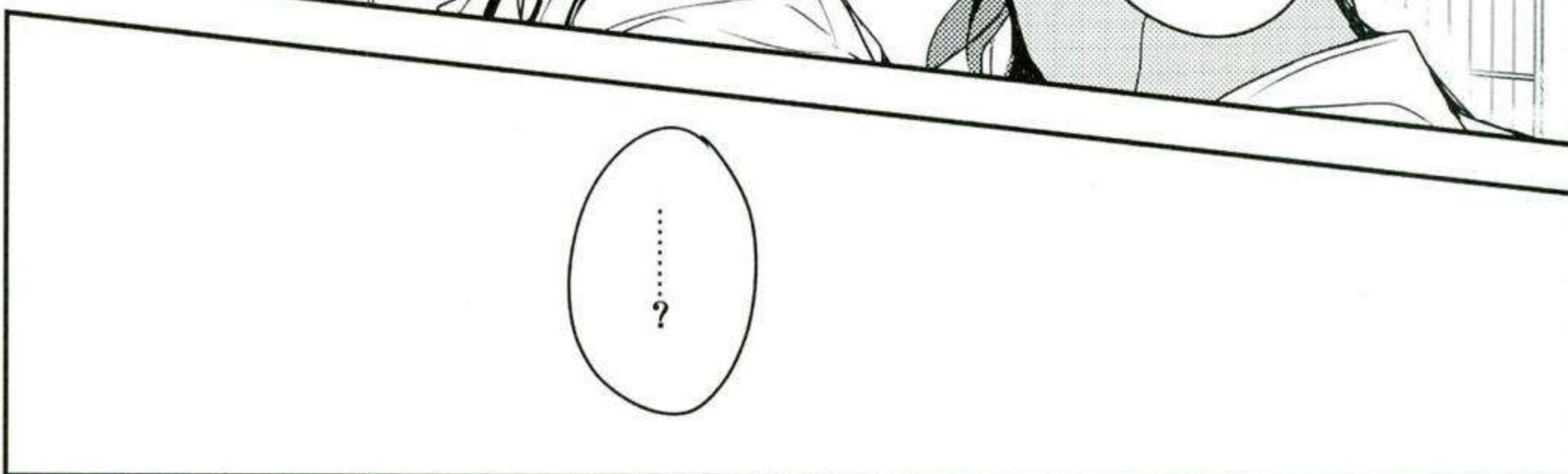




死ぬ時は、
お前が隣に――



あんたには、
昔から怒られて
ばかりだな



.....
?



ああ、懐かしい







そんなこと
ないさ



そんなことない



可笑しいな

むしろ逆だ



自分だって、
あんなに
死にたかったのに、



君みたいな奴を見ると、
死んで欲しくないと
思うんだ



なあ大俱利伽羅



声が出て、
息をして、

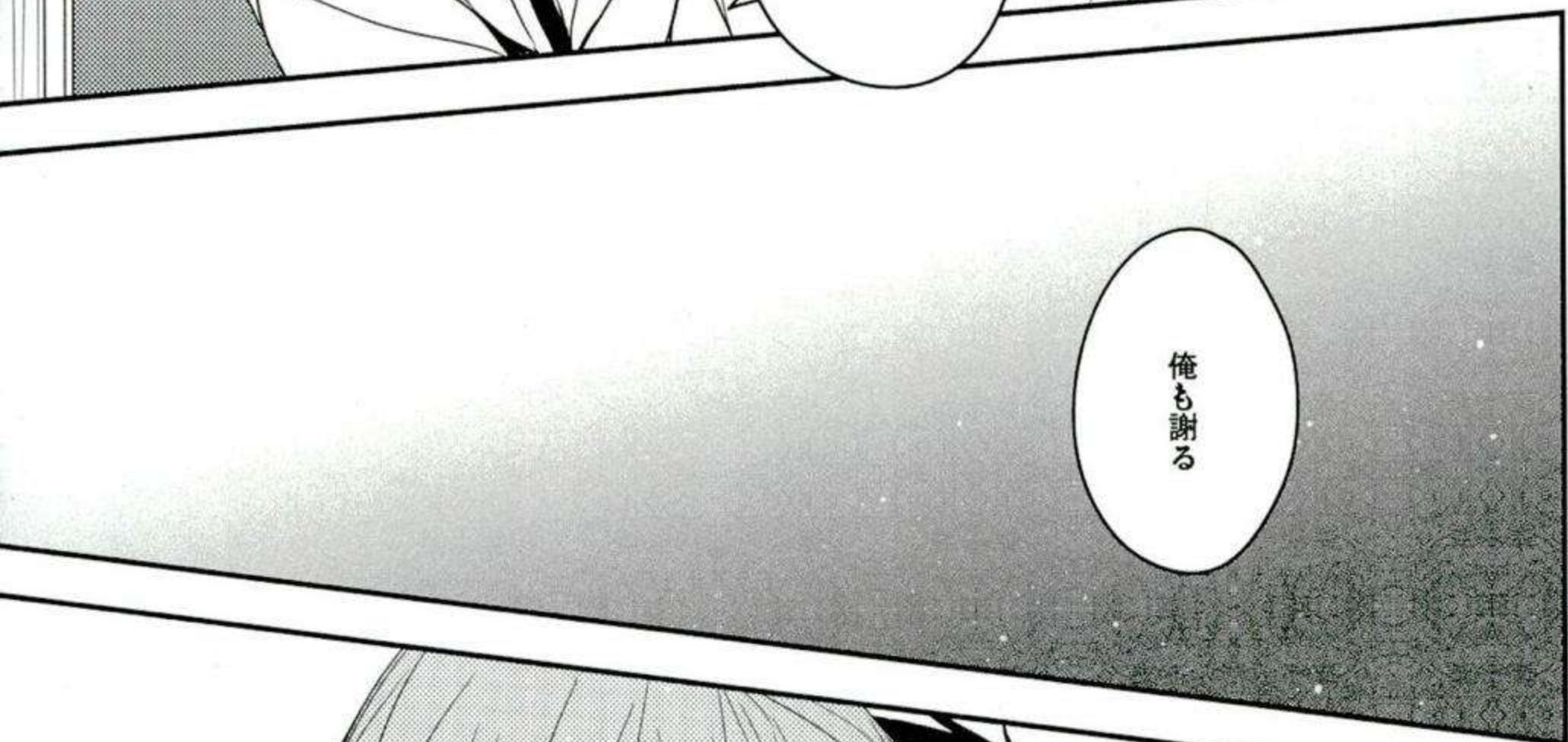
自ら足が
動くのなら、



二人にして、
ごめんな

ずっと言いたかった
ことがあるんだ

ギュッ





ただ、
敵を殺して、

奪って、

壊して、

利用されて、

売られて、

流されていく、

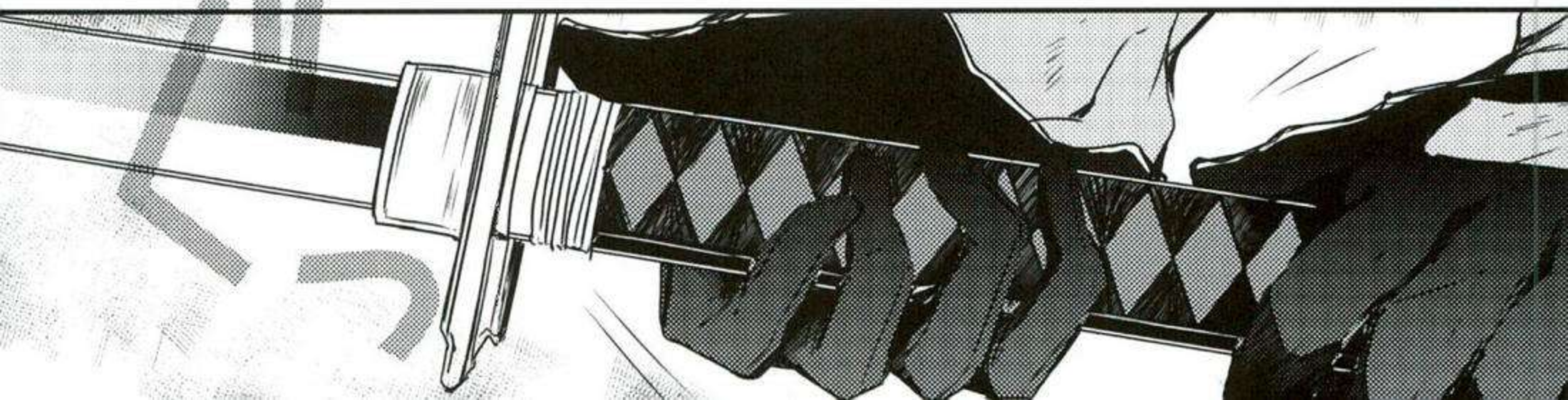
それだけの刃生
だとしても





ちゃんと、

生きて帰るための
剣を振るうから、



まだ、



まだ



生きたいって思う、
理由があったんだ。

死ぬ時は、 隣にお前が いてほしい

そう言ったら、鶴丸は酷く怖い顔で俺を叱った